

カラーユニバーサルデザインについて

現代社会において、色は重要な情報伝達手段となっています。印刷・塗装・コンピュータ技術の発展により、従来は白黒表示だったものが、急速にカラー化されています。

しかし、色を使うことによって分かりやすくしたつもりが、かえって一部の人には情報が伝わらないことがあります。色は誰にでも同じように見えているわけではありません。

カラーユニバーサルデザインとは、そうした多様な色覚を持つ様々な人に配慮して、なるべく全ての人に利用しやすい製品や施設・建築物、環境、サービス、情報を提供するという考え方です。

なお、色使いに加え、文字の形や大きさ、行間の広さなどにまで配慮する考え方を、より広義なものとしてメディアユニバーサルデザインといいます。

1 カラーユニバーサルデザインの3つのポイント

(1) できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ

- ・ 色の濃淡・明暗の差（コントラスト）をつけ、背景色と文字色の組み合わせに注意する。

(2) 色が見分けにくい人にも情報が伝わるようにする

- ・ 色の違いを分かりやすくするため、文字や線を太くする。
- ・ 地図やグラフなど、塗りつぶす面積が広い場合は、斜線やドットなどのハッチング（模様）をつける。

(3) 色の名前を用いたコミュニケーションを可能にする

- ・ 申請書など、色の名前を用いてやりとりする可能性があるものは、余白に色の名前を記載する。

2 カラーユニバーサルデザインのチェック方法

(1) 「色覚シミュレーションソフト」の活用

色覚障害のある人の色の見え方に近い色に疑似変換（シミュレーション）することができます。

(2) 「色弱模擬フィルタ」の活用

色覚障害のある人の視点を疑似体験することができます。



(眼鏡型フィルタ)



(ルーペ型フィルタ)